



平成 30 年 5 月 31 日(木)  
愛知県公立大学法人  
愛知県立大学学務部学務課  
教養教育担当：中島  
電話 0561-76-8832

愛知県立大学・教養教育センター事業

## 教養教育科目『県大エッセンシャルー大学でいかに学び、予測困難な未来をどう生きていくかー』において、教員・職員による授業参観を導入します。

今年度、5学部総合大学に必須の教養教育を創造する試みのひとつとして、県大教職員による授業参観を本学では初めて導入しました。授業の中で県大生は何を学び、何を感じ、何を発言しているのでしょうか。この機会をすべての教職員に公開し、大学教育のあり方を現場で見つめる新たな試みです。

本学の特色ある教育現場をぜひご取材ください。

「県大エッセンシャル」（前期4月～7月、15回、月曜4限）と題する科目では、「大学でいかに学び、予測困難な未来をどう生きていくか」をテーマにして、5学部から15人の専任教員がリレー講義しています。受講生は全5学部からの希望者108名です。授業では、学問の本質や今すぐにでも身につけてほしい知識について、教員の人生経験に照らしつつ講義します。同時に、さまざまな関心、目標、意思をもって学ぶ県大生が、個性ある発言で相互に啓発し合う空気を醸し出してくれます。

教職員による授業参観は、とかく、閉鎖的で密室感があると思われがちな大学の日常授業を、教職員が互いに参観し合うことによって、大学教育のあり方を現場で見つめる機会を、教養教育において率先して試行する、本学では初めての試みとなるものです。

なお、7月23日（月）の最終回は、久富木原玲学長が担当し、「アマゾン川の畔で『源氏物語』を語るーこれからの大学教育ー」と題する授業を行います。

### ■授業科目：「県大エッセンシャル」

※全学部の1年生を対象としたオムニバス科目です

### ■開講日時：前期（4月～7月）授業期間の月曜日4限（14:30～16:00）

### ■場 所：愛知県立大学長久手キャンパス H棟地下・H005教室

### ■注意事項：学内の教員・職員による相互参観の事業です。一般公開はしていません。



教養教育特別開講科目(前期・月曜日・4時限)

# 県大エッセンシャル

大学でいかに学び、予測困難な未来をどう生きていくか

4年間、どう  
過ごそうか？

教養って何？

大学の先生って  
どんな人達？

**こんなことを考えている人にピッタリの講義です**

日程	講師	講義テーマ
4月9日	神山齊己(情報科学科)	私たちは何をどう学ぶのか —教養教育—
4月16日	熊谷吉治(英米学科)	教養英語とグローバル化への対応 —教養教育—
4月23日	代田健二(情報科学科)	みんなで知ろう県大教養教育科目 —教養教育—
5月7日	人見明宏(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)	専門と教養, 全学的な視点から —専門教育—
5月14日	吉川雅博(社会福祉学科)	共生社会の形成に向けて —障害を知る—
5月21日	高島忠義(前学長)	世界におけるグローバル化とその行方 —反グローバリズムの潮流—
5月28日	宮谷敦美(グローバル実践教育推進室副室長)	グローバル社会で求められる能力 —グローバル実践教育—
6月4日	中島茂(歴史文化学科)	県大から見ずえる世界の今と将来 —グローバル学術交流—
6月11日	神谷幸宏(情報科学科)	ネット社会における倫理 —情報セキュリティ—
6月18日	清水宣明(看護学科)	生き延びるための自覚 —大規模災害で被災すること—
6月25日	竹中克行(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)	外国語を通して広がる世界 —複数の言葉がわかることの意味—
7月2日	柳澤理子(看護学科)	知っておきたい私のところとからだ —教養としての医療・看護—
7月9日	大塚英二(歴史文化学科)	すべての歴史は現代史である —生き方の学びとしての人文科学—
7月16日	上川通夫(教養教育センター長)	真理探究と人類の幸福 —これからの教養教育—
7月23日	久富木原玲(学長)	アマゾン川の畔で『源氏物語』を語る —これからの大学教育—

問合せ先：上川通夫 (G棟7階G709室)